

発言No. 11

受付No. 8

平成 26 年 8 月 26 日
9 時 57 分 受付

発 言 通 告 書

議席番号 20 番 氏名 西村 健

発 言 の 種 別
 (項目を○で囲む)

質疑 個人一般質問 緊急質問

答 弁 を 求 め る 者
 (該当者を○で囲む)

市長 教育委員会委員長 監査委員
 選挙管理委員会委員長 農業委員会会長
 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

項目番号

発 言 項 目 及 び 要 旨

1

一般廃棄物処理の現状と今後の方向性について

浜田市一般廃棄物処理基本計画では、『循環型社会』の構築をめざし、ごみ発生・排出削減や再資源化を進める」としているが、ごみの総排出量の目標値と実績値の差は、年々拡大しつつある。

また、中止の方針が示されたとはいえ、「ごみ袋の簡素化」が検討され、今後、浜田地区広域行政組合では廃プラスチックの焼却について検討されるなど、『循環型社会』の構築」に逆行するのでは？との疑問を抱かざるを得ない方向性も模索されている。

あわせて先日、浜田市が資源ごみの中間処理を委託している島根県西部地区資源化協同組合と浜田市議会で、浜田市のごみの分別や処理に関する意見交換を行ったこともふまえ、浜田市の一般廃棄物処理の現状と今後の方向性について質問する。

(1) 廃プラスチックの焼却について

- ① 本年度、浜田地区広域行政組合において、廃プラスチックと燃やせるごみの混焼試験を実施するとのことだが、目的および計画について問う。
- ② 廃プラスチックの焼却について、浜田市および浜田地区広域行政組合の一般廃棄物処理基本計画に記述がないのはなぜか。
- ③ これまで廃プラスチックを焼却処理しなかったのはなぜか。

(2) 浜田市一般廃棄物処理基本計画の重点施策への取組状況および課題認識について

- ① 基本計画の目標値と実績値の差が広がり、ごみ排出量が増えつつあることに対する認識について問う。

項目番号	発言項目及び要旨
②	4 Rの推進（啓発施設の充実、環境NPO等の育成）に対する取組状況および課題認識について問う。
③	生ごみ・廃食用油等のリサイクルの推進（生ごみ堆肥化プロジェクト、廃食用油有効利用プロジェクト）に対する取組状況および課題認識について問う。
④	事業系ごみの分別推進（直接搬入資源ごみの無料化、事業系ごみの分別搬入指導）に対する取組状況および課題認識について問う。
(3)	<p>今後のごみ発生・排出削減、再資源化の強化について</p> <p>ごみの排出量が再び増加傾向にある中、排出量・焼却量・埋立量の増加を「仕方なし」と許す方向に走れば、それを元の方向に戻すのは至難の業である。全国の先進事例に学び、いっそう4 Rを推進することが求められていると考えることから以下、質問する。</p>
①	廃プラスチックの焼却は、再検討すべきと考えるがどうか。
②	ごみの減量化・資源化を推進するため、分別の細分化について検討する考えはないか。
③	ごみの減量化・資源化を推進するため、燃やせないごみの中間処理のあり方について検討する考えはないか。
2	<p>リハビリテーションカレッジ島根（RCS）の経営状況と課題認識について</p> <p>平成19年度以降、入学者数の激減により経営危機に陥ったRCSは、22年度に経営改善計画を策定し、浜田市も2億円の無利子融資を中心とする財政支援を行ってきた。これにより、RCSの経営は改善されたが、経営の柱となる入学者数は、計画で示された目標の80人に及ばず、依然として危機的な経営状況が続いているといわざるを得ない。</p> <p>地域医療体制の整備が大きく遅れた県西部地域にとってRCSは、なくてはならない施設であり、また、浜田市として、多大な財政支援を行ってきたことから、その経営について、なおいっそうの注視と支援が必要と考えることから以下、質問する。</p>
①	平成22年度の経営改善計画策定後のRCSの経営状況および浜田市の認識について問う。
②	財政支援を行ってきた浜田市として、RCSの経営状況をどのように把握し、提言等を行ってきたのか問う。
③	今後のRCSの経営シミュレーションおよび浜田市の認識について問う。
④	RCSから新たな支援要請はないのか問う。